

JA全農ウィークリー

3面

新たに「酪王協同乳業(株)」を設立 (酪農部)

6-7面

全農グループ会社探訪
全農チキンフーズ株式会社 (広報・調査部)



「国産国産の日」で「フードバンクとくしま」へ県産食材寄贈(2面)



2021「いわて純情米」新CM発表イベント開催(4面)



東北協同乳業(株)と福島県酪農協の子会社・酪王乳業(株)が10月1日に合併(3面)

2 来年4月1日「いちごトレーニングセンター」開講(宮城県本部)

「国産国産の日」で「フードバンクとくしま」へ県産食材寄贈(徳島県本部)

3 JR長崎駅で県産農産物をPR販売(長崎県本部)

4 「第39回全農酪農経営体験発表会」をオンライン形式で開催(酪農部)

2021「いわて純情米」新CM発表イベント開催(岩手県本部)

5 JAズームイン(鳥取:JA鳥取いなば)

8 お米がテーマの「ひとつぶ」動画公開中(米穀生産集荷対策部)

福岡県オリジナル品種甘柿「秋王」フェア開催中

(福岡県本部・フードマーケット事業部)

JAタウンショップ紹介

JAてんどう(株)ジェイエエてんどうフーズ(山形県)

Web
限定

加工・業務用野菜のさらなる生産振興へ「JA全農 中部広域青果物センター」竣工(岐阜県本部)

みのる食堂アミュプラザくまもと店で「JA熊本市フェア」を開催(フードマーケット事業部)

『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



News!



来年4月1日「いちごトレーニングセンター」開講

「仙台いちご」生産者を育成し、生産拡大目指す

宮城県本部



仙台いちごの生産基盤の拡大に関する連携協定締結式



関係機関が「仙台いちご」の生産基盤拡大に関する連携協定を締結



2022年度の募集人数は新規就農者2人、県内農家の後継者1人の3人。対象年齢は18〜47歳で性別、農業経験は問いません。受講は無料で、新規就農者は山元町での就農が条件となっています。

宮城県の園芸主力品目であるイチゴは、「仙台いちご」として市場や消費者からのニーズも高く、生産拡大が求められています。宮城県本部は「仙台いちご」の生産基盤を拡大するため、山元町、JAみやぎ亘理、(株)まもとファームみらい野宮城など関係機関と連携し、「いちごトレーニングセンター」を設置しました。

「仙台いちご」の生産者を育成し、生産拡大を図ります。研修は山元町にある(株)まもとファームみらい野のハウスで行い、県産品種「ここへベリー」などの栽培技術や、生産・経営の基礎知識を学びます。研修修了後の就農、経営継続に係る支援体制を関係機関と共に構築し、支援します。

宮城県本部は関係機関と連携し、園芸・生産振興部生産振興課内に「いちごトレーニングセンター」を設置しました。2022年4月1日の開講に向け、10月1日から第一期の研修生を募集しています。

News!



「国消国産の日」で「フードバンクとくしま」へ県産食材寄贈

国産農産物の大切さ伝える

徳島県本部



寄贈品



清田理事長に目録を贈呈する長江県本部長(左)

贈呈式では、長江郁哉県本部長から「国産の安全・安心、高品質な食材をお持ちしました。子ども食堂でおいしなお料理を振る舞ってくだ

徳島県本部は10月14日、国消国産を発信するため、フードバンクとくしま(徳島県徳島市)を訪れ、県産農産物や飲料を寄贈しました。

「国消国産」とは「国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する」という意味で、JA全中が国内農業と食料生産の現状を消費者に知ってもらうことを目的に、10月16日の「世界食料デー」に併せて、「国消国産の日」に制定しました。

「国消国産」とは「国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する」という意味で、JA全中が国内農業と食料生産の現状を消費者に知ってもらうことを目的に、10月16日の「世界食料デー」に併せて、「国消国産の日」に制定しました。



新たに「酪王協同乳業(株)」を設立

福島・東北の酪農家や消費者に支持される乳業を目指す

酪農部



新会社設立発表会。左から紺野組合長(福島県酪農協)、齊藤常務(全農)、鈴木社長、佐久間副社長

両社は、東日本大震災以降、風評被害の影響を大きく受けましたが、福島県をはじめ東北の酪農家や消費者のために、安全・安心な牛乳・乳製品の製造・販売を継続するとともに、「11/19-B1乳酸菌ヨーグルト」や「酪王ブランド」などの新商品開発を行い、販売を拡大してきました。

今後、酪王協同乳業は、全農グループの乳業会社として、ブランド商品の販売拡大や両社の強みを生かした高付加価値商品の開発・販売を進め、福島県をはじめとする東北の酪農家に貢献し、消費者から将来にわたって支持される農協系乳業を目指します。



首都圏でも人気の「酪王カフェオレ」、「農協牛乳」などの販売商品

東北協同乳業(株)と福島県酪農協の子会社・酪王乳業(株)は10月1日に合併し、新たに乳業会社・酪王協同乳業(株)を設立しました。

場規模の縮小が想定される事業環境も踏まえ、両社が合併し、生産の合理化などによる競争力の強化を図ることが必要との考えで一致し、今回の合併に至りました。



JR長崎駅で県産農産物をPR販売

「36ぷらす3おもてなし企画」

長崎県本部

長崎県本部はJR長崎駅の企画「36ぷらす3おもてなし企画」で、4月から改札口に特設コーナーを設け、県産農産物のPR販売を行っています。

PR販売は、九州全県を巡るJR特別急行列車「36ぷらす3」がJR長崎駅へ到着する時間に合わせて実施。乗客に県産農産物をPRしようと、旬の農産物やゆでばし大根、県本部の独自ブランドである「リンアイジューズ」のお茶やみかんジュースなどを販売しています。また、コロナ禍で試食ができない代わりに旬の

農産物をラッピングして乗客や通行客へ配布するなど、訪れた多くの方へPRしています。

10月18日、おもてなし感謝セレモニーが開催され、ポスターやのぼりを活用した盛大な歓送迎をしていることに対し、JR長崎駅の職員から感謝状が授与されました。

県本部は2022年2月までイベントを継続し、県産農産物の認知度向上と地域活性化への貢献を目指します。



農産物をPRする職員



華やかな感謝状と花束をいただきました

酪農部

10. 10. 10.

式も行います。

「今」を支える酪農家と酪農

い。

場合は抽選となります。



■日時 11月26日(金)10時～ オンライン開催
■主催 全国農業協同組合連合会
■後援 農林水産省・(独)農畜産業振興機構 他
■特選 第15回全国学生「農家の夢」コンクール



岩手県オリジナル品種の知名度向上目指す

岩手県本部

全国統一キャンペーンをPRしました。

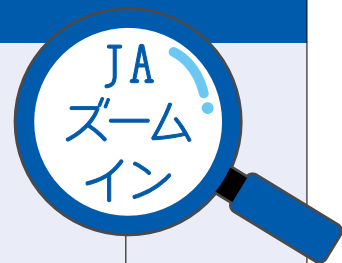
おいしさをPRしました。

ました。

を行います。



(左から)小野寺運営委員会会長、のんさん
達増岩手県知事



HACCP取得で衛生強化

福部らっきょう加工センター

JA鳥取いなば（鳥取県）



概要

令和3年1月31日現在

正組合員数	1万5253人
准組合員数	1万7261人
職員数	381人
販売品取扱高	65億6千万円
購買品取扱高	77億5千万円
貯金残高	1725億7千万円
長期共済保有高	6195億5千万円
主な農産物	水稲、ラッキョウ、白ネギ、梨、柿、因幡和牛

JA鳥取いなばは、鳥取県東部に位置し、鳥取市、岩美町、八頭町、若桜町、智頭町の一市四町の管内に、約3万3千人の組合員がいます。管内は、標高のある山間地から沿岸の砂丘地まで広がり、豊富な水量の千代川水系が鳥取平野の田畑を潤す、緑が多い地域です。

安全・安心を届ける

「福部らっきょう加工セ



福部らっきょう加工センター外観



作業風景



ラッキョウ漬け商品

ンター」は、2018年3月に新築されました。鉄骨造平屋建て、延床面積999平方メートル。施設内にある地下タンクには福部町で収穫されたラッキョウが塩蔵保存されており、注文に応じて、加工ラッキョウを同年製造出荷しています。塩蔵施設から取り出されたラッキョウは、塩抜きなどの工程を経て商品化されます。

危害分析重要管理点（HACCP）で衛生強化

今年3月、同センターは、管内の食品加工施設で初となる鳥取県HACCP適合施設に認定されました。HACCPとは、食品を扱う過程において、これまでの衛生管理を基本としつつ、食品の安全性を確保するために重要な工程を管理し、その記録を残し、製品の安全性を確保する衛生管理の手法です。機械の点検、清掃、保守など各工程のチェック項目・マニュアルを増やしたことにより、「これまで以上に衛生管理を徹底できるようにになった」と岡垣雅信センター長は話します。

信頼の歴史を紡ぐ

2016年には「鳥取砂



HACCP適合施設認定証

丘らっきょう」「ふくべ砂丘らっきょう」の名称で農林水産省の地理的表示（GI）保護制度に登録され、その年の販売額は過去最高の10億7350万円を記録しました。令和の時代に入りました現在、昨年から続くコロナ禍により鳥取砂丘の観光客が減少。土産用ラッキョウの販売額にも影響がありました。ここ2年は全国的に豊作が続き、加工ラッキョウの引き合いが弱い傾向にあります。それでも、付き合いが長い県外取

引先、全国の生協などから変わらず受注をいただいています。昨年は土産物で減額があったものの、全体を通じて前年に近い売り上げとなりました。

ラッキョウ栽培の歴史は、これまで多くの生産者、JA・市場の関係者、加工センターで働く人たちが毎年良品を出荷し、長い年月をかけて積み重ねてきた信頼の歴史でもありません。HACCP取得により、100社以上ある取引先からの信頼も一層高まると期待しています。伝統ある福部ブランドを守りながら、安全・安心の商品を出荷していきます。管内の施設では今後もHACCP取得を目指し、地域の皆さまから愛される鳥取ブランドの確立を図ります。

全農グループ 会社探訪

全農チキンフーズ株式会社

生産から処理加工、販売まで

「安心・美味・新鮮」な「JAチキン」を世界へお届け



全農チキンフーズ(株)は、JAグループの一員として、宮崎県、鹿児島県、岩手県において、産地・生産者・飼育方法などを明確にした「JAチキン」を、量販店や食肉専門店を通じて全国の消費者や海外にお届けしています。また、「安全・安心」な鶏肉を利用した加工品を製造・販売しています。

【広報・調査部】

生産から販売まで一貫して 手掛ける

全農チキンフーズ(株)は、1972(昭和47)年に全農と食肉卸の老舗であった(株)鳥市の共同出資により(株)全農鳥市として誕生し、1990(平成2)年に(株)全農鳥市と全農の食鳥販売事業を統合、発足しました。2008(平成20)年に宮崎くみあいチキンフーズ(株)と鹿児島くみあいチキンフーズ(株)を子会社化し、住田フーズ(株)を含めた「全農チキンフーズグループ」を結成。食

鳥の生産から処理加工、販売まで一貫して手掛けるグループ事業運営体制を確立しました。20

(令和2)年にはデパ地下やエキナカ、高速道路のパーキングエリアなどへのリテール(中食売店)運営や、外食業態などへの販売を経営の主力にしている老舗鶏肉販売会社である(株)アサヒプロイラーを子会社化し、既存事業とのシナジー効果の発揮による事業拡大に取り組んでいます。

環境負荷低減への取り組みとして、物流会社とともにフェリー輸送を用いたトレーラーによる

大量輸送に取り組んでいることが評価され、令和2年度の「エコシップ・モーダルシフト優良事業者」として認定されました。

また、22(令和4)年には節目の創業50周年を迎えます。今後ともJAグループの一員として国内鶏肉産業の発展に貢献していきます。

「消費者接近型事業」の 取り組み強化へ

全農チキンフーズグループは、日本の鶏肉処理羽数の上位県である宮崎県、鹿児島県、岩手県に生産拠点を有しており、国内最大級の鶏肉インテグレーターとして生産から販売までを一貫して行っていることが強みです。グループで生産・処理された鶏肉は、独自のトレーサビリティシステムを導入し、生産農場から飼

持続的な成長を目指し グループ全体でワンチームに

代表取締役社長
山下 武彦氏

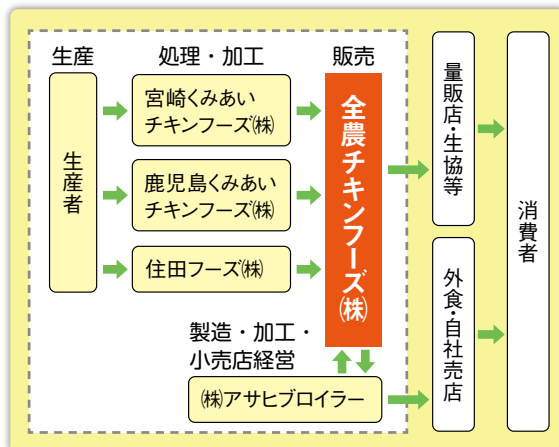


全農チキンフーズグループは、鶏の農場飼育から鶏肉処理加工、消費者への鶏肉販売を一貫して行うグループ会社です。2008年のグループ化以降、新農場の設置や農場成績向上、国内最大級処理工場新設稼働（19年・宮崎県川南町）や、バックセンター稼働（埼玉県戸田・神奈川県大和）など着実に事業を拡大してきました（生産羽数約8000万羽／年、国産シェア約11%）。

生産・製造は、宮崎くみあいチキンフーズ・鹿児島くみあいチキンフーズ、住田フーズ、卸売販売・直販は全農チキンフーズ、そして中食店舗・外食卸販売は今年4月に完全子会社化したアサヒブロイラーが担っています。

長期的には人口減少や代替肉・培養肉などにより消費はどうなるのかといった課題がありますが、鶏肉に関しては世界的にもまだまだ消費は増加すると思われ、国内トップインテグレーターに到達していれば必ず生き残り、系統農協のプロイラー生産基盤を守ることができると確信しています。

現在、グループ全体で「2030年のめざす姿」を協議しており、持続的な成長や事業領域の拡大に対する前向きな議論がなされている一方、生産・製造現場での労働力不足など重い課題も浮き彫りになってきています。この機会に風通しのよいグループ連携を進め、ワンチームとなり新たなチャレンジやグループ全体のさらなる最適化を図っていきます。



住田フーズ農場



育期間などの各種情報を追跡することができま。徹底した品質管理の下、産地のまごころを込めて国産鶏肉を食卓にお

届けしています。
現在、コロナ禍により消費者のニーズに変化が起こっています。店舗の人手不足に対応し、

店頭に直接並べることができる包装肉や、簡便調理の加工食品など新しい商品の開発、Eコマースや海外への輸出といった新しいチャネルへの販売、また、アサヒブロイラーの子会社化によるコンシューマー向け商品への加工、消費者への直接提供など、「消費者接近型事業」の取り組みを強化しています。
生産農場から販売までの事業全体の競争力強化を行うことで、消費者・取引先から生産者まで、全ての人から最も信頼されるトップブランドとして地域農業の発展と系統プロイラー事業基盤の維持、拡大を目指します。

会社の概要（令和3年3月31日現在）

- 本社所在地** 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル4F
- 事業内容** ブロイラーおよび関連食肉の販売、畜産物の加工並びに加工品の販売業務を主要事業とし、その他に畜産飼料・資材の開発および販売業務
- 設立年月** 1972年（昭和47年）9月20日
- 代表者** 山下武彦
- 従業員数** 175人（グループ5社計2436人）



公式ホームページはこちら



<https://www.ja-zcf.co.jp/>

「JAチキン加工品詰め合わせセット」を5名様に プレゼントします。

応募方法

件名に「グループ会社探訪プレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールにてご応募ください。

応募先

zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り

令和3年11月12日（金）23時59分



※写真はイメージです

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

お米がテーマの食育プログラム 「ひとつぶ」動画公開中

ライスライダーと、お米のクイズ・ダンスで楽しく食育!



全農は、お米の消費拡大の取り組みの一環として、子どもたちに興味を持ってもらうため、お米をテーマとした幼児向けの食育プログラムの動画を制作、10月15日に公開しました。【米穀生産集荷対策部】

動画には、Twitter上で毎日お米の知識を発信する全農のオリジナルキャラクター「ライスライダー」が登場。お米やごはん食に関するクイズや、お米をテーマとした歌「ひとつぶ」で一緒に踊るなど、子どもたちに楽しみながらお米に親しんでもらえる

内容になっています。

動画は特設ホームページで公開しており、動画に登場するクイズパネルや、ライスライダーに変身できるお面・ベルトもダウンロードすることができます。

おこめクイズ



特設
ホームページ



甘くてサクサク、極上のおいしさ

福岡県オリジナル品種甘柿「秋王」フェアを開催

全農の直営飲食店舗3店舗では11月1日から11月21日の間、
福岡県オリジナル品種の甘柿「秋王」フェアを開催します。

【福岡県本部・フードマーケット事業部】

「秋王」は、福岡県が年月をかけて開発した、大玉で種がほとんどない珍しい甘柿です。ひと口食べると芳醇な果汁が口いっぱいに広がり、キメの細かいなめらかな果肉でありながら、サクサクした食感をお楽しみいただけます。

今回のフェアでは、収穫最盛期を迎える「秋王」をふんだんに使用したパフェやタルト、フルーツサンド、スムージーなどの特別メニューを提供します。



実施
店舗

みのりカフェミュプラザ博多店
みのりカフェ福岡パルコ店
みのりカフェ三越銀座店



店舗の詳細は<https://minoriminoru.jp/shop/>をご覧ください

※新型コロナウイルス感染拡大の影響によりフェア開催内容が変更となる場合があります。



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

JAてんどう （株）ジェイエイてんどうフーズ

「スーパーラ・フランス」は、光センサーによる検査で糖度14以上、熟度7%以上、さらに果形も良好という「最高基準」をクリアした「ラ・フランス」のみに与えられる称号です。

JAてんどうの「ラ・フランス」の中でも、全体量の約6%ほどしかない厳選された貴重な逸品です。気品あふれる芳醇な香りと、まるやかな舌ざわり、格別のまるやかな甘みをお楽しみください。

※お届けは11月下旬~12月中旬ごろの予定です。



スーパーラ・フランス約5Kg.....5980円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
11月8日号は休刊いたします。
次は11月15日号です。